

H20年7月 訓練開始 第1回目 (4才)

- * 症状 ・顎 (あご) が動かず口唇だけでお話しするので、発音不明瞭。
 - ・話の途中で舌が出てしまうため、これも発音不明瞭の原因となっている。
 - ・舌が奥へ入ってしまう為、声が前に出ず小さな声になる。
 - ・こちらの話すことは全て理解でき、「はい」と言う程度の返事は (あい、になるが) 小さな声で答える。
- * 母親が「おしゃべりはするが、発音不明瞭で何を言っているのか分からない。とって=テテテ」になると言います。
- * 50音は、あ行~た行まで発音して疲れた。その中で、出る音は「あいうたちつてと」だけ。「え列」は舌が前に出てしまう。
- * 50音のひらがな文字書きは、「言葉が出てからでないと学習は無理」と言われ、まだ勉強していないというので、手を添えてなぞり書きから始めた。楽しそうに勉強した。
- * 7項目のトレーニング指導。
- * 集中力は6分程度

※ 同年8月20日 母親と電話で話した。

今まで「しんかんせん」=ちかってー、「アンパンマン」=アンパンと言っていたが、正しく言えるようになった、と話してくれました。

H20年9月 第2回目

- * 50音中、35音発音できるようになった。「は行 ま行」の発音ができない。
 - 「は行」=あ行の発音になる。本人は「は ひ ふ へ ほ」と発音しているつもりだが、気流が出ないためあ行になる。
 - 「ま行」=あ行の発音になる。これも「ま行」のつもりで発音しているが、両唇の筋肉が弱いために、あ行の発音になる。

H20年12月 第3回目

- * 50音中45音、発音できるようになった。「ま行」が出るようになった。まだ「は行」の音が出しにくい。
- * 「どうしたん?」「だいじょうぶ?」「じゅんばん」など自分が思ったことを、そのまま表現できるようになった。

H21年4月 第5回目

- * 母親が ・ コミュニケーションが図れるようになった。まだ長いおしゃべりになると意味不明になる。(これは、主に顎 (アゴ) の筋力が弱い為に長くお話できない状況です)
 - ・ 指しゃぶりが止まらないので、指が膨れ上がりボタンを閉められない。と言います。
- * ぞう、きりん、ゴリラ、ワニ、とら、たぬき、しか、カンガルーなどはっきり言えるようになった。
- * こちらの問いかけに対して、すぐ返事ができるようになった。
- * 集中力もついて、30分トレーニングができる。
- * 50音の文字書き含め7項目のトレーニング。